

(そのとき、イエスはひとびとにいわれた。)
「かみのくにはつぎのようなものである。ひとがつちにたねをまいて、よるひる、ねおきしているうちに、たねはめをだしてせいちょうするが、どうしてそうなるのか、そのひとはしらない。つちはひとりでにみをむすばせるのであり、まず、くき、つぎにほ、そしてそのほにはゆたかなみができる。みがじゅくすると、さっそく、かまをいれる。しゅうかくのときがきたからである」さらに、イエスはいわれた「かみのくをなににたとえようか。どのようなたとえでしめそうか。それは、からしだねのようなものである。つちにまくときは、ちじょうのどんなたねよりもちいさいが、まくと、せいちょうしてどんなやさいよりもおおきくなり、はのかげにそらのとりがすをつくれるほどおおきなえだをはる。

イエスは、ひとびとのきくちからにおうじて、このようにおおくのたとえでみことばをかたられた。たとえをもちいずにかたることがなかったが、ごじぶんでしたちにひそかにすべてをせつめいされた。

ぼく、わたしがみちをあるいているときに、いまちょうどはるのきせつで、ふゆにきがかれたみたいなすがたを、あつというまに、とてもきれいなはっぱでドンドンうつくしいすがたになっていることにきづいていますか。すこしとどまって、よ〜くみてごらん。いいきもちになっていませんか。

イエスさまはいつもたとえばなしでかみのくのことをはなしてくださっています。きょうの「からしだね」のはなしもそうです。そのたねをみたことがありますか。わたしたちがよく知っているばしょにあります。それはたるみきょうかいのしんぷさまのいえのいりぐちのみぎにあります。そのたねはとてもちいさいですよ。(いまもあるとおもいますが・・・) わたしたちはたねがせいちょうするようすをじっさいにみていないけれど、そこにそそがれるかみのはたらき、かみのくにきづいていないので、そこでイエスさまは、なんとかきづかせようとたとえをつかいます。

イエスさまは、かみさまのくには「からしだね」のようなものであるとおっしゃっています。ほかのどんなたねよりもちいさなからしだねは、せいちょうすると、わたしたちのせのたかさをこえるほどになって、おおきくえだをはるといいます。ものすごいエネルギーですね。かみさまのまかれたあいのたねもおなじです。それはさいしょはひとのめにもえないほどちいさいけれど、いまもわたしたちのうちにできるかみさまのくのかんせいをめぎして、せいちょうをつづけます。そのたねはいま、どのくらいのたかさにそだっているのでしょうか。イエスさまといっしょにながめましょうね。

でしたちは、かみさま（イエスさま）のことを、はじめはちいさなにんずうからはじまって「ちいさなたね」はどんどんせかいじゅうにひろがったように、ちいさなあいのたねをとおしてイエスさまといっしょに、かみさまのくにづくりのためにちからをあわせて、はたらきたいものですね。

ぬりえ



ひだりとみぎのえの10このちがいをみつけますか

